

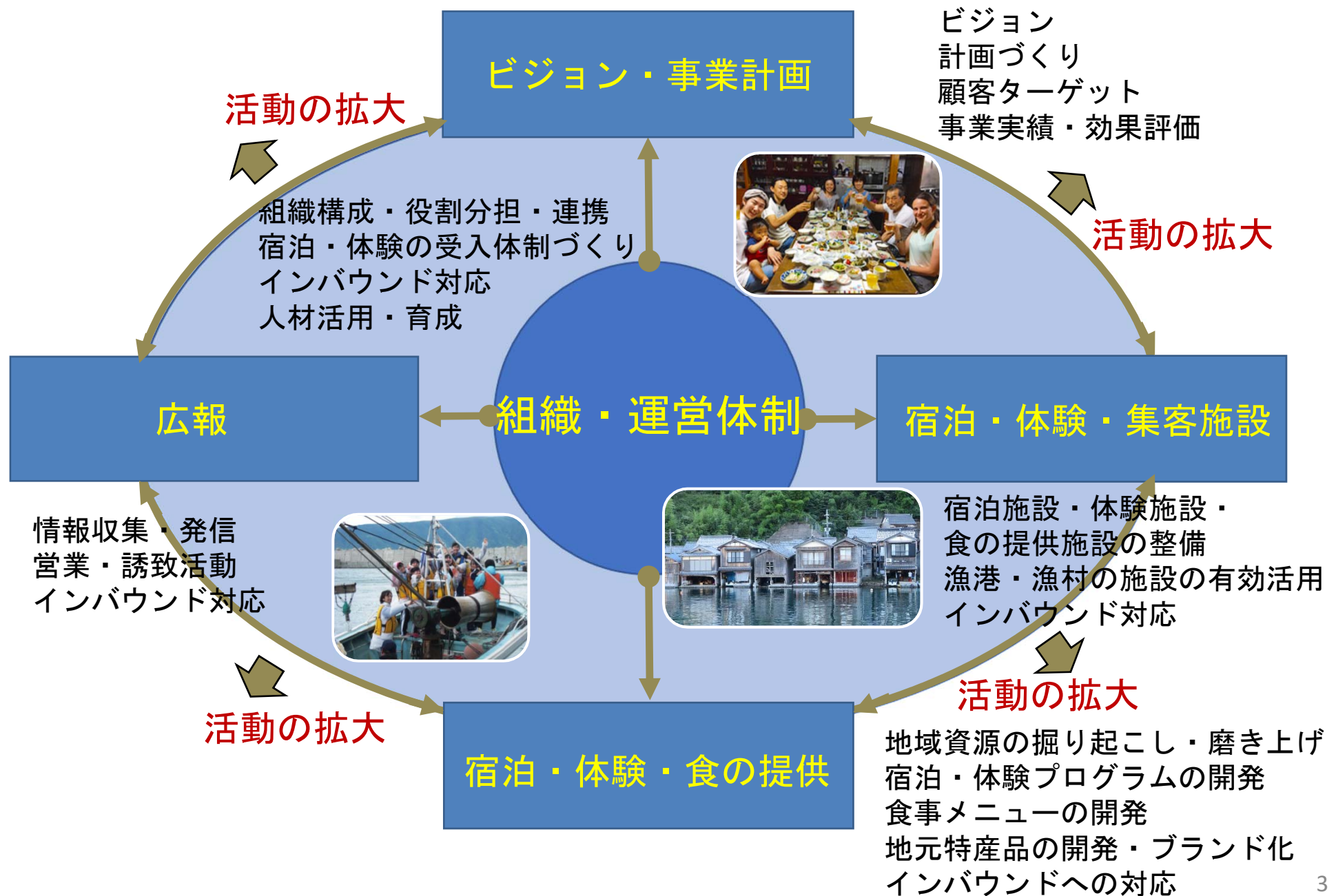
渚泊 取組事例集

水産庁 漁港漁場整備部

目 次

- 地域（組織活動）における取組
- 地域（活動組織）別取組事例紹介
- 取組のステップアップ事例紹介

地域(組織活動)における取組



各取組の具体的な内容

A. 持続的に活動するための課題と取組み

要素	課題
1. ビジョン・目標・事業計画	(1)ビジョンづくり
	(2)事業計画の策定
	(3)効果の把握と評価
	(4)顧客ターゲットの設定
2. 組織・運営・体制	(1)組織の構成
	(2)組織における役割分担
	(3)人材確保
	(4)人材育成
	(5)他の組織との連携
	(6)受入体制・窓口の設置
3. 宿泊・体験/特産品・食の提供	(1)地域資源の掘り起こし
	(2)宿泊・プログラムの開発 特産品・食事メニューの開発
4. 設備・施設	(1)既存施設の改修
	(2)集客施設の整備
	(3)漁港漁村施設の有効活用
5. 広報	(1)情報発信
	(2)営業・誘致活動
	(3)情報収集・分析

B. 来訪者への提供メニュー

提供メニュー
就業(農林水産業)体験プログラム
地元食の体験プログラム
アクティビティプログラム
クラフト体験プログラム
歴史・文化体験プログラム
自然・環境体験プログラム
地域活性化の取組への参加
地域内での宿泊
教育旅行・修学旅行
特産品(農林水産物、加工品)の販売
移住・定住の支援
地域通貨の利用
クラウドファンディングによる取組への参加

具体的な事例

A. 持続的に活動するための課題と取り組み

組織・運営・体制

地元の受入体制・窓口づくり

・日本版DMO候補法人として登録を受け活動を実施	相差海女文化活性化協議会（三重県鳥羽市）
・地域住民が町の将来像を検討するワークショップを開催し、自らアクションプログラムを策定	須賀利渚泊推進協議会（三重県尾鷲市）
・webサイト上に、増加するインバウンド客に対応した地域内の宿泊施設の予約システムの構築	伊根浦地区農泊推進地区協議会（京都府伊根町）

他の組織との連携

・ニセコ町にアンテナショップをオープンし、寿都町への誘客促進	北海道寿都町水産業産地協議会（北海道寿都町）
・市内の観光に係る組織3者が連携し、マネジメント、マーケティング、営業を役割分担	一般社団法人 気仙沼地域戦略（宮城県気仙沼市）
・大手旅行会社等と連携し、体験プログラム等の予約販売サイトの仕組みを構築	家島諸島都市漁村交流推進協議会（兵庫県姫路市）
・大学が施設の指定管理者となり、予約受付等の窓口を担当	福井県若狭町（福井県若狭町）
・中核団体が法人化し、行政や県内外のツーリズム団体と連携	NPOかまえブルーツーリズム研究会（大分県佐伯市）

人材活用、雇用

・古民家改修や体験プログラムの開発・整備を担う大学教員と契約	須賀利渚泊推進協議会（三重県尾鷲市）
・水産物のブランド化やプログラム開発へのインターンシップ受入	鳥羽渚泊推進協議会（三重県鳥羽市）
・漁業体験プログラムの体験方法や値段設定についての検討にあたり専門家を招聘	内外海地区活性化プロジェクト推進協議会（福井県小浜市）
・外国人対応窓口（英語、韓国語）等のために研修生を活用	対馬グリーン・ブルーツーリズム協会（長崎県対馬市）

宿泊・体験/特産品・食の提供

体験プログラムの開発、強化

・個人、グループ等の旅行形態に応じた商品をパッケージ化	一般社団法人 気仙沼地域戦略（宮城県気仙沼市）
・既存体験プログラムの内容を精査の上、新しいタリフ（一覧表）を整備	家島諸島都市漁村交流推進協議会（兵庫県姫路市）
・「クジラ」という独自性の高い資源を活用したプログラムの開発	太地町漁業協同組合（和歌山県太地町）
・南海トラフ大地震による想定津波高の高さを逆手にとった「防災学習プログラム」の開発	黒潮町観光ネットワーク（高知県黒潮町）
・教育旅行中心から、高価格商品の大人向けのプランへの企画転換	NPOおぢかアイランドツーリズム（長崎県小値賀町）

地元特産品の開発、ブランド化

・活〆の先進地に職員を派遣し、活〆技術を修得し地元水産物のブランド力の強化	歯舞漁業協同組合（北海道根室市）
・学生やアドバイザーの協力のもと、地域の水産物の魅力向上や新たなブランドの構築を検討	鳥羽渚泊推進協議会（三重県鳥羽市）
・水産加工品を開発し、地域の飲食店やみやげ物店に提供する体制を整備	須賀利渚泊推進協議会（三重県尾鷲市）

設備・施設

施設整備の実施

・道の駅の空き店舗を特産品を使ったビールの醸造所兼直売所に改修	鋸南町農泊推進協議会（千葉県鋸南町）
・廃校を宿泊・体験が可能な交流拠点施設に改修	福井県若狭町（福井県若狭町）
・廃校を未利用魚を活かした加工品の開発・研究・製造・販売が可能な共同加工場に改修	内外海地区活性化プロジェクト推進協議会（福井県小浜市）
・冬期営業実施のためにバーベキューガーデン改修	田尻漁業協同組合（大阪府田尻町）
・海女さんが運営するカフェに宿泊施設を併設	伊座利の未来を考える推進協議会（徳島県美波町）
・古民家を改修し宿泊施設を整備	NPOおぢかアイランドツーリズム（長崎県小値賀町）

情報発信ツールの作成や広告媒体の活用

・地域を疑似体験できるプロモーション映像（VR）を作成	北海道寿都町水産業産地協議会（北海道寿都町）
・浜の活動を紹介するためのビデオ、コンセプトブック、フライヤーを作成	牡鹿半島浜泊推進協議会（宮城県石巻市）
・webサイトを多言語化し、町の紹介、体験や宿泊等についての説明を実施。	一般社団法人若狭三方五湖観光協会（福井県若狭町）
・プロのカメラマンに委託したフォトギャラリーとPR動画をwebサイトに掲載	家島諸島都市漁村交流推進協議会（兵庫県姫路市）
・webサイトへのアクセス数向上のためのFacebookの立ち上げ	対馬グリーン・ブルーツーリズム協会（長崎県対馬市）
・多言語で体験型旅行事業の内容を説明した動画の作成	一般社団法人まつうら交流党公社 （長崎県松浦市、平戸市、佐世保市）
・ライブカメラ、定点カメラによるwebサイトでの地域の魅力の常時発信	NPOかまえブルーツーリズム研究会（大分県佐伯市）

国内外の業者への営業・誘致活動の実施

・大手旅行会社等に対し、民泊・漁業体験等の誘致活動を実施	鹵舞漁業協同組合（北海道根室市）
・首都圏の他、交流の深い自治体への出向宣伝・営業の実施	魚津市農泊推進協議会（富山県魚津市）
・訪日外国人の誘客のため日本政府観光局主催の商談会等へ出展	一般社団法人若狭三方五湖観光協会（福井県若狭町）

B. 渚泊における来訪者への提供メニュー

就業(農林水産業)体験プログラム

・うに獲り体験、うに剥き体験	北海道寿都町水産業産地協議会（北海道寿都町）
・海女の仕事体験	伊座利の未来を考える推進協議会（徳島県美波町）
・大敷（定置）網漁体験、船釣り体験、魚さばき体験	福井県若狭町（福井県若狭町）
・日常の生業をそのままプログラム化した「ほんなもん」の農林漁業体験	一般社団法人まつうら交流党公社（長崎県松浦市、平戸市、佐世保市）

地元食の体験プログラム

・漁業体験で獲れた魚介類を使った海鮮バーベキュー	田尻漁業協同組合（大阪府田尻町）
・地元名物の「鯨スタミナ丼」	太地町漁業協同組合（和歌山県太地町）

アクティビティプログラム

・湾岸線沿いのサイクリング	北海道寿都町水産業産地協議会（北海道寿都町）
・洞窟を探検するシュノーケリング、シーカヤック	福井県若狭町（福井県若狭町）
・島のかあちゃんのガイドによる路地裏散策	島の旅社推進協議会（三重県鳥羽市）

クラフト体験プログラム

・首都圏の企業やボランティアと一緒に関わる古民家改修プロジェクト型プログラム ーション	雄勝町渚泊推進協議会（宮城県石巻市）
・貝殻を使った小物づくり、貝紫染めの体験	島の旅社推進協議会（三重県鳥羽市）

歴史・文化体験プログラム

- | | |
|---------------------------------|----------------------|
| ・ 漁業と観光業を繋ぎ、地域の自然や文化、産業を体験するツアー | 鳥羽渚泊推進協議会（三重県鳥羽市） |
| ・ 地元ガイドが相差の歴史を説明しながら神社を参拝するツアー | 相差海女文化活性化協議会（三重県鳥羽市） |

自然・環境体験プログラム

- | | |
|---------------------------------------|--------------------|
| ・ 世界的にも珍しい鳥が見られるクルーズ | 歯舞漁業協同組合（北海道根室市） |
| ・ 地区内の博物館と連携した、学芸員によるレクチャーやイルカへの餌やり体験 | 太地町漁業協同組合（和歌山県太地町） |

地域内での宿泊

- | | |
|---------------|---------------------------|
| ・ 漁家、農家に泊まる民泊 | 多くの地域において実施 |
| ・ 改修した古民家での宿泊 | NPOおぢかアイランドツーリズム（長崎県小値賀町） |

教育旅行・修学旅行

- | | |
|-----------------------------------|-------------------------|
| ・ 地元旅行会社との連携による修学旅行生を受入 | 北海道寿都町水産業産地協議会（北海道寿都町） |
| ・ 漁村留学として県内・首都圏・関西圏から100人超の転入生を受入 | 伊座利の未来を考える推進協議会（徳島県美波町） |

特産品（農林水産物、加工品）の販売

- | | |
|-------------------------------|-------------------|
| ・ 農協と連携し、水産物と農産物の直売所を運営 | 鳥羽渚泊推進協議会（三重県鳥羽市） |
| ・ 地元特産品をテーマにしたイベントを開催し、特産品を販売 | 歯舞漁業協同組合（北海道根室市） |

移住・定住の支援

- | | |
|------------------------------|-----------------------------|
| ・ 移住者検討者のためのガイドブックやホームページを作成 | 伊座利の未来を考える推進協議会
（徳島県美波町） |
|------------------------------|-----------------------------|

地域(活動組織)別取組事例紹介 目次

番号	事業実施主体名	地域
1. 1	北海道寿都町水産業産地協議会	北海道寿都町
1. 2	歯舞漁業協同組合	北海道根室市
1. 3	一般社団法人気仙沼地域戦略	宮城県気仙沼市
1. 4	雄勝町渚泊推進協議会	宮城県石巻市
1. 5	牡鹿半島浜泊推進協議会	宮城県石巻市
1. 6	鋸南町農泊推進協議会	千葉県鋸南町
1. 7	魚津市農泊推進協議会	富山県魚津市
1. 8	福井県若狭町	福井県若狭町
1. 9	一般社団法人若狭三方五湖観光協会	福井県若狭町
1. 10	内外海地区活性化プロジェクト推進協議会	福井県小浜市
1. 11	鳥羽渚泊推進協議会	三重県鳥羽市
1. 12	島の旅社推進協議会	三重県鳥羽市
1. 13	相差地域海女文化活性化協議会	三重県鳥羽市
1. 14	須賀利渚泊推進協議会	三重県尾鷲市
1. 15	伊根浦地区農泊推進地区協議会	京都府伊根町
1. 16	田尻漁業協同組合	大阪府田尻町
1. 17	家島諸島都市漁村交流推進協議会	兵庫県姫路市
1. 18	太地町漁業協同組合	和歌山県太地町
1. 19	ながとふるさと体験受入協議会	山口県長門市
1. 20	伊座利の未来を考える推進協議会	徳島県美波町
1. 21	黒潮町観光ネットワーク	高知県黒潮町
1. 22	一般社団法人まっくら交流党	長崎県松浦市、佐世保市、平戸市
1. 23	対馬グリーン・ブルーツーリズム協会	長崎県対馬市
1. 24	NPO法人おぢかアイランドツーリズム	長崎県小値賀町
1. 25	NPO法人かまえブルーツーリズム研究会	大分県佐伯市

1.1 北海道寿都町水産業産地協議会(北海道寿都町)

経緯・取組概要

- 寿都町では、これまで修学旅行生を中心とした教育旅行の受入体制を整備し、年間約20校の1500名以上の生徒を受け入れ、漁業体験や漁家民泊などを通じた交流事業を展開。
- さらに、一般観光客の増大を図るため、地元漁協等で作る協議会において、漁船の乗船や水産物の加工品作り等の地域資源を活用した観光体験プログラムの開発や、地域の魅力発信ツールの制作を実施(農水省の交付金を活用)。
- 漁港付近に交流拠点を整備し、体験学習の場や情報発信の場として活用。

取組内容

教育旅行の受入

- 地元の旅行会社との連携により、修学旅行生の受入を実施。漁業体験は旅行会社が主催、民泊は町が主催している。
- 2015年には台湾からのツアー客も受入。



漁業乗船



漁家民泊

体験プログラムの提供

- 地域の魅力を組み合わせたモデルコースを開発し、観光商品として提供可能な体験プログラムを提供。
- 水産物普及施設や道の駅を活用し、体験学習の場や食事提供、情報発信の場として活用。



寿都町の位置



他の組織(二セコ)との連携

- 年間150万人の観光客で賑わう二セコに、寿都の魅力を発信するアンテナショップをオープン。(H29年11月)
- 二セコエリアで広く寿都の魅力を発信し、寿都町への誘客推進。

情報発信ツールの作成

- 地域を疑似体験できる地域内の景観や観光スポットのプロモーション映像(VR)を作成。



VR

- 観光商品、街の魅力発信するパンフを作成。
- WEBを活用した情報発信(HP、SNS等)。

1. 2 歯舞漁業協同組合(北海道根室市)

経緯・取組概要

- これまで、歯舞漁協は単独で様々な都市漁村交流活動を行ってきたが、受入可能な規模が限られていたことが課題。
- 漁協と地域マリンビジョン協議会、地元ホテル、旅行会社が連携することで、円滑な受入体制の確立や受入対応の規模の拡大を期待。
- 地域を訪れる観光客やバードウォッチャー等に対し、歯舞の観光資源のPRや漁業体験活動の誘致等を行うことで、渚泊の更なる集客数を確保し、地域の所得向上及び渚泊をビジネスとして継続的に活動できる体制を構築。

取組内容

インバウンドへの対応

- 歯舞地区は、世界有数の渡り鳥の飛来地であり、ケイマフリやオジロワシといった世界的にも珍しい鳥も見られる本土最東端パノラマクルーズには多くの外国人が来訪。
- 外国人対応のため、多言語対応の翻訳機付き拡声器とタブレット端末を導入。その結果、米国、アイルランド、シンガポール等の旅行者からの予約や受入が増加。



パノラマクルーズ

地元特産品のブランド化

- 鮮魚活〆販売の先進地である長崎県上五島町に職員を派遣し、活〆技術を修得することで、歯舞水産物のブランド力を強化。

他の組織(旅行会社)との連携

- 旅行会社と連携し、漁業体験、組合食堂での食事、直売所立ち寄りをセットにしたツアーを企画。



特産品の販売

- 歯舞おさかなまつり、歯舞昆布まつり等、地元特産品をテーマにしたイベントを開催し、特産品を販売。
- 札幌市内、首都圏での産直やフェスタに出展。



歯舞おさかなまつり



歯舞昆布まつり

取組効果

指 標	2016年度	2017年度 (上：実績／ 下：計画)
宿泊者数 ＝漁家民泊利用者＋ホテル利用者数（人）	59	82 90
日帰り観光客数（人） ＝組合食堂・直販所利用者数、市場見学者数＋遊覧船（国内外）（人）	63	500 144
売上額（千円）	787	12 2,149 1,643

国内向けの営業、誘致活動の実施

- 大手旅行会社、北方領土県民会議に対し、民泊・漁業体験誘致活動を実施。
- 歯舞おさかなまつり、歯舞昆布まつり等各種イベントにおいて、渚泊のPR、誘致活動を実施。

1.3 一般社団法人気仙沼地域戦略(宮城県気仙沼市)

経緯・取組概要

- 震災後、当地域ならではの仕事や暮らしの文化・伝統、新しい遊びを観光資源化した体験型商品「しごと場・あそび場 ちよいのぞき 気仙沼」の企画立案・運営を実施。
- しかし、まだ商品としては発展途上であり、今後、どのようにして稼げる商品として昇華し、旅行商品として売り込んでいくかが課題。
- そこで、渚泊推進対策事業を通じて、旅館、民宿への宿泊と組み合わせたツアー商品として造成し、個人やグループ旅行、教育旅行などの団体旅行等それぞれのニーズにあう商品として企画販売することを目指す。

取組内容

ツアー商品の磨き上げ

- 個人やグループ旅行、団体旅行等それぞれの旅行形態に応じた商品をパッケージ化。
- ちよいのぞきのプログラムを既存の旅館、民宿への宿泊や民泊などと組み合わせたツアー商品として造成。

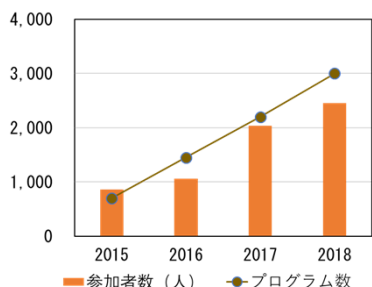
体験プログラムの開発、提供

- 観光業以外の様々な事業者が参画し、普段は水産業や農業に従事している事業者がプログラム提供を担当。
- プログラム数を増やし、開催頻度を増やしたことで参加者数も向上。

- 漁業関係：サメ加工場見学、函屋体験、漁具屋見学、氷屋見学
- 農業関係：いちご農家体験
- アクティビティ：カヤック、SUP
- クラフト体験：サメの歯キーホルダー作り、ジェルキャンドル作り



参加者数とプログラム数の推移



2015年: 不定期開催
2016年: 毎月開催
2017年: 毎週末開催
2018年: 随時開催

営業・誘致活動

- 教育旅行など法人団体を誘客するための商談会への参加や企業・団体を訪問し、教育旅行等団体旅行に向けたツアー商品売り込む。
- 商談会や業界懇談会への参加、企業訪問などとあわせ旅行代理店等へ宿泊パッケージを営業。

組織の連携による役割分担

- マネジメントは気仙沼観光推進機構が担い、総合的な観光施策の意思決定を行う。

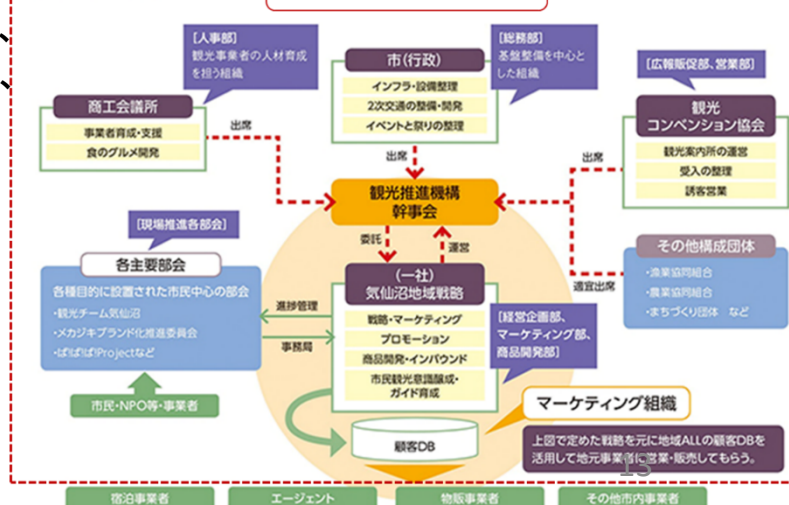
- (一社)気仙沼地域戦略は地域DMOであり、マーケティングを実施し、観光戦略を立てる。
- (一社)気仙沼地域戦略が企画立案した商品の誘客営業や受注業務を(一社)気仙沼観光コンベンション協会が担う。

気仙沼市の観光に係る役割分担

気仙沼市の位置



気仙沼観光推進機構 マネジメントの仕組み



1.4 雄勝町渚泊推進協議会(宮城県石巻市)

経緯・取組概要

- 震災によって壊滅的な被害を受けた石巻市雄勝地区では、魅力ある地域資源を活用し、主要観光地に集中しているインバウンドを含めた旅行者を地区に呼び込み、水産資源、農作物の消費拡大を図るため、行政や自治会、団体、企業の協力のもと「雄勝町渚泊推進協議会」を平成29年に設立。
- 消費者需要や、地域内での実施可能性、先進地事例等を調査し、今後の商品開発やターゲットの方向性を決めて取組の検討を開始。
- 渚泊推進対策事業を通じて「渚泊」をビジネスとして実施し、雄勝町の復興推進と持続的な街づくりに寄与。

取組内容

情報収集(先進地視察)、マーケティングの実施

- 専門業者に委託し、首都圏エリアにおけるweb調査やモニターツアーを通じて、渚泊の体験メニュー等に対する消費者需要の調査を実施。
- 宿泊や食事、体験メニューの提供者となると想定される地元関係者に対し、実施可能性や課題についてヒアリング調査を実施。
- 先進地を視察し、成功要因や課題等について調査を実施。

体験プログラム、地元特産品の開発

- さっぱ船クルーズ等の体験プログラムを開発。



さっぱ船クルーズ

- 地元食材を活用した新たな「食」コンテンツを開発。



ホタテ石焼ラーメン

情報発信ツールの作成

- 首都圏の企業や個人のボランティアが古民家改修と一緒に関わるプロジェクト型プロモーションを実施。



雄勝古民家 DIYプロジェクト
体験ボランティア募集中！
詳細は、お問合わせください



雄勝の古民家を仲間と
WaiWai DIYしませんか
DIY初心者でも無理なく楽しめる

プロジェクト紹介動画の一部(Web配信)

- 地域や体験プログラム等を紹介する多言語リーフレットの制作や動画の制作、配信。

インバウンドへの対応

- インバウンドを意識した商品開発を行い、多言語対応が可能なオペレーションを検討。
- インバウンド商談会などに積極的に参加してPR。

メニュー(民泊)提供者の意識向上・スキルアップ

- 民泊運営検討者を対象に、民泊運営マニュアルを作成し「民泊・農泊理解促進セミナー」を開催。

民泊運営マニュアル
(法的手続きの説明や民泊運営のポイントを整理)



14 雄勝町渚泊推進協議会

石巻市の位置



1.5 牡鹿半島浜泊推進協議会(宮城県石巻市)

経緯・取組概要

- 震災によって壊滅的被害を受けた牡鹿半島荻浜地区の各浜では、農林水産資源を活かし、漁業の担い手育成、水産物のPR・販売、古民家カフェ、鹿肉加工、角・革製品作製、林業体験、自然体験等の提供を進めてきたが、自立、持続性が課題。
- そこで、これまでの各浜の取組をつなぎ、牡鹿半島全体で取組の安定化・持続化を図るため、「牡鹿半島浜泊推進協議会」を設立。
- 牡鹿半島の自然や暮らし、農林水産業をまるごとコンテンツとした、本格的な体験プログラムを提供。

取組内容

人材活用

- 観光コンテンツの知識や経験と地域における豊富な活動実績を有する専門家に事業委託。
- 協議会構成メンバーに対して専門的見地から活動をサポート。

情報収集(先進地視察)

- その土地の暮らし・文化に触れられる、石見銀山生活文化研究所、伊根船屋群を視察。

施設整備(古民家改修)

- 古民家をカフェに改修し、地場食材を利用したメニューの提供、ギャラリー、ハンドメイド雑貨店として利用。



古民家カフェ

石巻市の位置



石巻市

宮城県
Miyagi
©JZENPR DataCom

情報発信ツールの作成

- 浜の活動を紹介するためのビデオ、コンセプトブック、フライヤーを作成。

- 体験予約を受け付けるためのHPを作成。



ホームページ

体験プログラムの開発、提供

- 漁業
漁師とフィッシング、子ども漁業体験、牡蠣づくしツアー
- 狩猟(ジビエ)
罾を学ぼう、鹿を捌いてみよう、鹿を美味しく食べよう
- 林業
山を知りカエデを探そう、自伐林業体験、メープルシロップをつくらう
- アクティビティ
カヌー、SUP



漁業体験



林業体験



SUP

1. 6 鋸南町農泊推進協議会(千葉県鋸南町)

経緯・取組概要

- 鋸南町は東京都心から100km圏内にあり、交通の便がいいことから日帰り観光が主流となり、宿泊業者の廃業や保養所の老朽化・荒廃が進んでいた。また、農家や漁家においても後継者不足から廃業のリスクが高まっていた。
- そこで、「鋸南町農泊推進協議会」を設立し、農泊(渚泊)推進対策事業を通じて、日本らしい農村と漁村の風景の維持及び農村・漁村の暮らし体験の提供、地域の魅力のPRによる認知度の向上、地域経済の向上を図る。

取組内容

農業体験の受入体制の整備

- 住民ワークショップの実施。
- 備品や安全管理マニュアル、オペレーションマニュアルの整備。
- 農家所得向上につながる営業販売からツアー催行、顧客関係管理までの統合的なオペレーションフローを確立。

モニターツアーの実施

- インバウンド対応にあたり、留学生を対象としたモニターツアーを実施。
- モニターツアーの結果を踏まえ、移動／飲食／宿泊／体験の適切な組合せ、情報収集と発信を効率よく実現する。

Globe Trotter T&E Presents February 19-21
Free Consulting Program : Spring session(Sakura)
Exploration of Japan's Rural Side and Hospitality&Tourism program in Kyonan Town

[Tour Schedule] 1 night & 3 days
Date: Feb.19th - 21st
Program Fee: Free!!
1 night accommodation, Transportation to Kyonan, all activities included in the schedule.
Group size/Max. 30 pax

Date	Program Schedule
Feb. 19 th Mon	8:00 Meeting at JR TOKYO Station 8:20-9:45 Tokyo(Saijō-Kyonan Train) 10:30-12:30 Mt.Ashigari RUMBLE 12:00-14:00 Hotel Inspection "Yam" (14:15-15:15: Supermarket "Yam" & Experience "Yam" Making Pickles) 15:00-19:00 Dinner "Yam" (Evening at the Hotel "Yam")
Feb. 20 th Tue	9:00-9:00 Tour "Yam" (Yam's History School) 10:30-12:00 Experience "Yam" (Sakura Dyeing) 12:30-13:30 LUNCH 13:30-14:30 Experience "Yam" (Hanga) 15:00-17:30 Japan Town (H&M) Tokyo
Feb. 21 st Wed	10:00-12:00 Reporting Session at University 13:30-17:00 Review session at NRI Media Technology

Project A : Editing Promotional Movie
Explore Kyonan & Experience Japanese culture
Promotional Movie(Sample)

Project B : Hotel Inspection & Learning Japanese Hospitality
Orientation Inspection Q&A Session

For Booking & Enquiry
Globe Trotter T&E: Takahashi or Sakakibara
TEL : 03-5362-7994
E-mail: st-b2b@studyabroad.co.jp
E-mail to here

留学生対象モニターツアーのチラシ

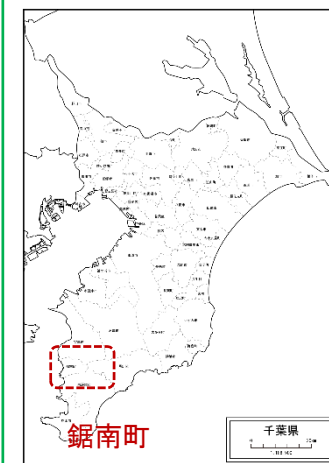
施設の改修

- 道の駅の空き店舗を、鋸南町の特産品を使ったビールの醸造所兼販売店に改修。
- 農家漁家レストランの改修。



鋸南町の特産品を使ったビール

鋸南町の位置



差別化を図るためのプログラムの開発

- さくらプロジェクト: 佐久間ダム周辺に植樹されている頼朝桜(河津桜)について、インバウンド、女性、農ある暮らしに関心が高い層や親子連れをターゲットに、大草刈や剪定作業への参加や染色体験を組み合わせた独自のプログラムを開発。
- しごと旅行プロジェクト: 農ある暮らしや地域での生活に関心が高いUターン候補者向けに「きょなん仕事旅行」として、首都圏からの地の利を活かし年間訪問回数の多いプログラムを開発。
- きょなんの歩き方プロジェクト: インバウンド、親子連れ、F1層(20歳から34歳までの女性)などターゲットセグメント別に農泊旅行商品を造成する。
- リノベーションキャンプ: 首都圏大学の建築系学生と地域内の建設・設備系事業者の協働によりリーズナブルな空き家や空き施設のリノベーション手法を検討し、地域内の空き家・空施設のリノベーションの推進と継続的なプロジェクト運営を目指す。

1.7 魚津市農泊推進協議会(富山県魚津市)

経緯・取組概要

- 魚津市では、これまで6次産業化による活性化を目指し、魚津市観光協会など商工業サイドの主導による観光型農業・漁業が行われてきたが、農林水産漁業者の協力があまり得られず、事業が小規模になり誘客に苦戦。
- そのため、漁協が主導となり、農林水産業全体が力を合わせ、商工観光業界と連携しながら、第1次産業魅力を最大限に発揮できるような活動を行うため、「魚津市農泊推進協議会」を設立。
- 協議会を通じて、農泊(渚泊)事業に関する情報共有や意見交換、研修等によるスキルアップを実施。

取組内容

マーケティングの実施

- 首都圏の大学へ調査研究委託し、地域資源の掘り起こしのためモニターツアーを3回開催。また、民泊受入についてのアンケート調査を実施・分析。

情報発信ツールの作成、国内営業

- 専用のwebサイトを立ち上げ、国内外に魚津の魅力と体験プログラム等をPR。
- 6次産業化プランナーなどの専門家、観光業界の協力を得ながら、首都圏の他、魚津市と交流の深い自治体へ出向宣伝・営業。



魚津漁業協同組合HP

他の組織(旅行業者)との連携、窓口づくり

- 市内旅行業者と連携し、観光客の問い合わせ・予約申込受付や、申込者と体験協力者との仲介を行う窓口の組織づくりを実施。

魚津市の位置



人材活用、メニュー提供者(農林漁業者)の意識向上

- 6次産業化プランナー等専門家と共に、市内の集落における農泊(渚泊)についての説明会を実施。
- 第一次産業従事者を対象にした先進地視察を実施し、農泊(渚泊)の活動に対する理解と意欲の向上を促進。
- 体験コンテンツの実施に協力してもらう農林漁業者を募集。

1. 8 福井県若狭町(福井県若狭町)

経緯・取組概要

- 福井県南西部の常神半島に位置する岬小学校は、生徒数の減少によりH29.6に廃校。
- 若狭町では、同小学校を漁獲した魚の加工体験を行う調理場や宿泊室などに改修・再利用し、滞在可能な都市漁村交流施設とすることを計画。
- また、福井工業大学(金井学園)と連携し、同大の学生を漁村に誘致するほか、都市部からの教育旅行を受け入れ、大敷網(定置網)等の漁業体験や水産加工体験メニューを提供することにより、地域全体の活性化を推進。

取組内容

施設整備(廃校改修)

- 昭和57年築、平成29年に閉校した小学校を改修し、観光交流拠点、農山漁村体験拠点として、平成30年4月にオープン。
- 宿泊、魚さばきや干物・糠漬け作成等の体験が可能。
- 大学の公開講座や合宿の会場とするなど、大学のセミナーハウスとしても活用。



施設外観

改修した施設内の様子

若狭町の位置



他の組織(大学)との連携、窓口づくり

- 大学が施設の指定管理者となり、施設利用や体験の申込受付窓口を担当。
- 施設で開催するイベントの企画運営を地区住民と大学が連携して実施。



第1回みさき祭の様子



第1回みさき祭の様子

体験プログラムの提供

- 漁業・加工体験
 - ・ 大敷網(定置網) 漁体験
 - ・ 船釣り体験
 - ・ 魚さばき体験
 - マリンスポーツ
 - ・ シーカヤック
 - ・ シュノーケリング
- (上記2種の方法で洞窟を探検するツアーを実施)



大敷網(定置網)漁体験



魚さばき体験

1.9 一般社団法人若狭三方五湖観光協会(福井県若狭町)

経緯・取組概要

- 若狭三方五湖観光協会では、1990年頃より、高齢化に悩む地域の漁業従事者の、「漁師としての仕事、生業の海を子供達に伝えたい」との思いから、漁業体験学習の受入れを開始。
- 若狭湾の5つの漁港と、その背後集落では、漁港施設と漁村を活用した様々な体験プログラムを提供し、地域の漁業者や住民がインストラクターを担当。2007年からはインバウンドの受入れも開始。
- 若狭町の花・湖・川・里・歴史や、新鮮な魚介類、農作物をPRすることで、観光客の誘致を図り、雇用の確保や町の活性化につなげることを目指す。

取組内容

漁港や漁村を活用したプログラムの提供

○湾内の5つの漁港において、「大敷網漁見学体験」「水揚げ見学体験」「海釣り体験」「漁師との語らい」等の体験プログラムを提供。

○集落から選出された観光組合長の下で、漁業者や住民が役割分担し体験のインストラクターや宿泊の受入れが集落全体の上で円滑に行われている。

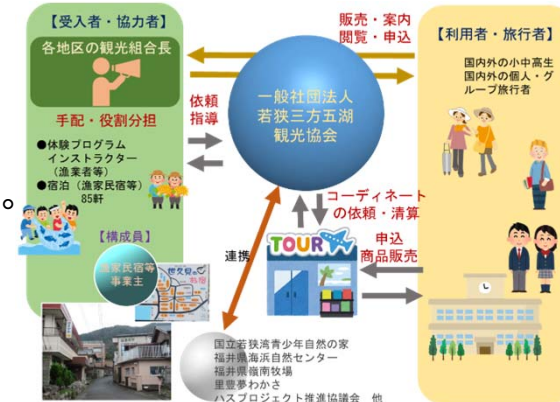


世久見漁港における体験プログラムの内容

他の組織との連携

○体験プログラムのインストラクターや宿泊の手配は各集落の観光組合長に依頼。

○漁業体験以外の農業体験、アクティビティの提供には、地域内の他の組織と連携。



他の組織と連携した運営体制

若狭町の位置



インバウンドの営業・誘致活動

○海外(台湾、香港等)で開催される日本政府観光局の主催する旅行展示会、現地説明会に行政(県)とともに参加し、旅行商品を紹介。

○webサイトにて、多言語で活動の概要や町の紹介、体験や宿泊等について紹介を実施。

○毎年度、一般客200~1,000人、教育旅行1~5校が訪れている。



多言語対応したwebサイト

1. 10 内外海地区活性化プロジェクト推進協議会(福井県小浜市)

経緯・取組概要

- 内外海地区は、全面が美しい日本海の風景と豊かな漁場を活かし、集落ごとに多様な漁業と漁家民宿の複合経営が行われている。
- しかし、担い手の高齢化が進行し、後継者のいない地区が半数であり、5～10年後には民宿は半減し、地区によっては民宿そのものがなくなる可能性が高くなっている。また、各民宿での食事提供が負担となっている。
- そこで、小浜市、漁業者、民宿経営者、地域DMOおばま観光局等が協議し、「内外海地区活性化計画」を策定。内外海地区全体を一つの宿と見たて、地区全体のフロント機能や共同の厨房となる拠点を配置し、各漁家民宿や団体、個人、企業が連携することにより、受入体制の強化と観光地としての魅力向上を図る。

取組内容

既存施設の改修による拠点づくり

○廃校の校舎を活用し、未利用魚を含む水産物の製造・加工拠点および学習拠点として、共同加工場を整備(さかなの学校うちとみキッチン)。

○上記施設内には、地域の伝統加工品である鯖のへしこ・なれずしの製造場所のほか、魚介類の鮮度を維持したまま冷凍することが可能である高鮮度冷凍施設(CAS)を整備し、新たな販路の開拓や付加価値の向上を図る。

また施設内には、子ども等の学び場として、魚の捌き方体験や加工品製造体験ができる施設を備えており、漁村の文化の次世代への継承や交流人口の増加を図る。

共同加工場&海の学習室整備事業
(旧田島小学校の活用“さかなの学校うちとみキッチン”) 2019年7月開校



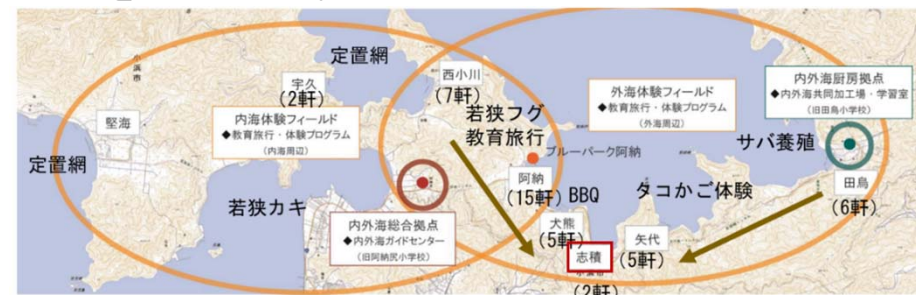
事業イメージ

体験プログラムの開発

○検討中のワカメ刈り体験、タコカゴ体験、サザエ網漁体験、小浜よっぱらいサバのエサやり、シーカヤックによる海の宝探し等の体験プログラムについて、ターゲット層に対応した体験方法や値段設定について、専門家を招聘し、現地指導・見直しを行う。

食泊分離による役割分担

○民宿事業者の高齢化や人手不足を背景に、各民宿にて食事を提供することが難しくなり、約半数の民宿が漁家レストランと宿泊の分離に賛同し、志積地区をモデルとした宿泊分離事業を実施。2019年には、地域住民が出資して設立した(株)志積が中心となり、漁家レストラン、宿泊施設の整備についてプロジェクトを進めている。



() 内数字は民宿軒数
内外海地区の各集落の役割

(食泊分離: 食事は志積レストランへ)
食泊分離を促すレストランや、地域のモデルとなる宿泊棟を整備する

小浜市の位置



1.11 鳥羽渚泊推進協議会(三重県鳥羽市)

経緯・取組概要

- 鳥羽市では、漁業者の高齢化や後継者不足や特産物(アラメ、キンコ)の生産量が減少による地域の文化や伝統の消失が危惧されており、また、観光客の減少や観光業の後継者不足が課題。
- そこで、地域の様々な主体(ツアー企画会社、漁協、市、若手漁業者、水産加工販売業者、農産加工販売業者)が参画した「鳥羽渚泊推進協議会」を設立し、「学生の力」を活用し、渚泊を観光ビジネスとして持続的に活動できる体制の構築を検討。
- 地域の自然や文化・産業を体験するエコツーリズムや、特産品の販売、インターンシップによる観光コンテンツの充実化を実施。

取組内容

地元の受入体制づくり

- 事業推進会議を設置し、事業全体の推進についての検討、取組の達成度、将来ビジョンや方向性を共有。
- 地域の様々な主体を集め、地域の課題の洗い出し、取組の方向性を決めるためのワークショップを開催。

人材活用、体験プログラム開発、 地元特産品開発・ブランド化

- インターンシップにより学生を対象とした渚泊の検討、地域の体験型ツアープログラムの開発を実施。
- サワラのブランド化に関するインターンシップを通じて、新たなブランドの構築、地域の農水産物の魅力の向上を検討。
- 学生やアドバイザーの協力のもとで、アラメ、アサリ、キンコ(ボトルネックが明確でインパクトが大きい)以外の地域資源の掘り起こしを実施。

体験プログラムの提供

- 漁業と観光業を繋ぎ、地域の自然や文化、産業を体験するツアーを実施。



エコツーリズムのメニュー

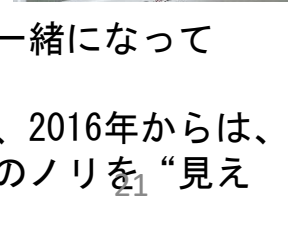
人材雇用

- 取組をコーディネートし、事業全体をサポートする人材を地域外から募集・採用し、研修を通じて地域の活性化を担う人材に育成。

特産品の販売

【答志島トロさわら】

- 格別に美味しい秋から冬のサワラをブランド化しようと鳥羽市観光協会と鳥羽市、鳥羽磯部漁協が一緒になって2015年から取組を開始。
- 三重県水産研究所の協力も得て、2016年からは、脂の乗り具合や生態を調査し、脂のノリを“見える化”。



21

鳥羽市の位置



1.12 島の旅社推進協議会（三重県鳥羽市）

経緯・取組概要

- 「島の旅社推進協議会」は、町内会、旅館組合、漁協、市等の構成員により、答志島の魅力である、ありのままの島の生活を訪れた方におすそわけし、体験していただきたいという思いで島の人々の手で「島の旅」をプロデュースすることを目的に設立。
- プロデュースするスタッフは、漁業や養殖業、海女業を兼務している「島の母ちゃん」たちであり、少しでも対価が地域に落ちるような誘客、商品開発、情報発信を行い、島の産業へ寄与。
- リピーターを含む来訪者が増加し、事業へ協力する島民も増加。今後は周辺の離島へと活動エリアを広げることも検討。

取組内容

情報収集(地域資源の掘り起こし)

- 答志島内の自主組織とともに島内の資源調査を実施し、体験プログラムを作成。

体験プログラムの提供

- 島の暮らしそのままの、島民自らが実施可能なサービスを提供。
- 食事体験は地元旅館との連携により実施。



海女小屋見学



貝殻拾い

鳥羽市の位置

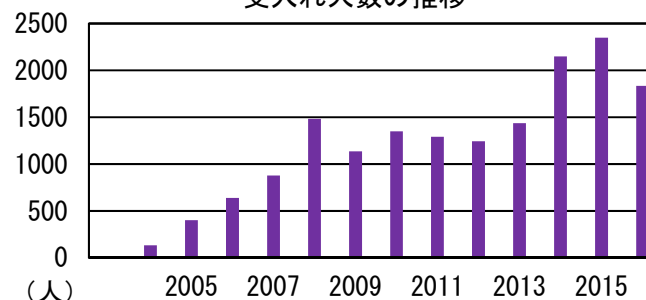


分類	体験プログラムのメニュー
漁業体験	釣り（堤防）、市場見学、干物づくり、ロープ教室、海女小屋見学、漁師・海女の話、魚のつかみ取り、ちりめんモンスター
クラフト体験	シェルキャンドルづくり、ほら貝磨き、貝殻花瓶づくり、貝紫染め
自然体験	無人島磯観察（浮島）、貝殻拾い、海水浴
島の暮らし	島のかあちゃんのガイドによる路地裏散策、島内ウォーキング、ごみ拾い（環境学習）、寝屋子制度
食事体験	海女小屋食事体験、海の幸お料理、島のおやつづくり
ウェルネスの旅	島内ウォーキングと管理栄養士監修の食事付きツアー等

窓口づくり

- 協議会が窓口となり、旅行者からの申込を受けてサービス提供者の手配を。

受入れ人数の推移



1. 13 相差地域海女文化活性化協議会（三重県鳥羽市）

経緯・取組概要

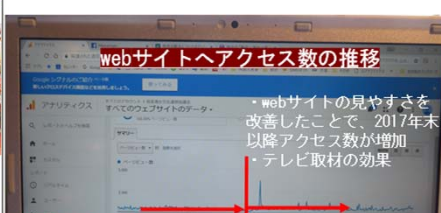
- 一般社団法人相差海女文化運営協議会は、日本一現役の海女が多いまちとして「海女文化」を保全・継承し、町民の誇りとまちの価値を高めていく活動を推進することを目的に設立。
- 日本版DMO候補法人として登録を受け、鳥羽商工会議所の運営支援を受けながら、町内会、宿泊の組合、漁協、海女さん等地元の各組織と連携を図って活動を実施。
- 海女が信仰する神明神社「石神さん」を中心に、来訪者が海女文化に触れながら周遊できる拠点づくりを面的に実施。

取組内容

人材活用、マーケティングの実施

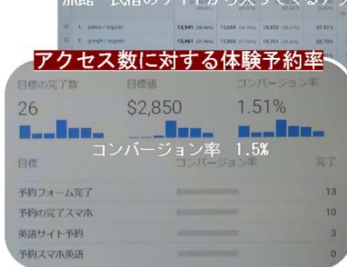
- 専門家を活用し、来訪者の満足度、再来訪意向、消費金額等を調査・分析する仕組みを構築。
- Webサイトに対するアクセス解析の実施。

海女小屋相差かまどwebサイト



流入元の調査結果

旅館・民宿のサイトから入ってくるアクセス者に注目



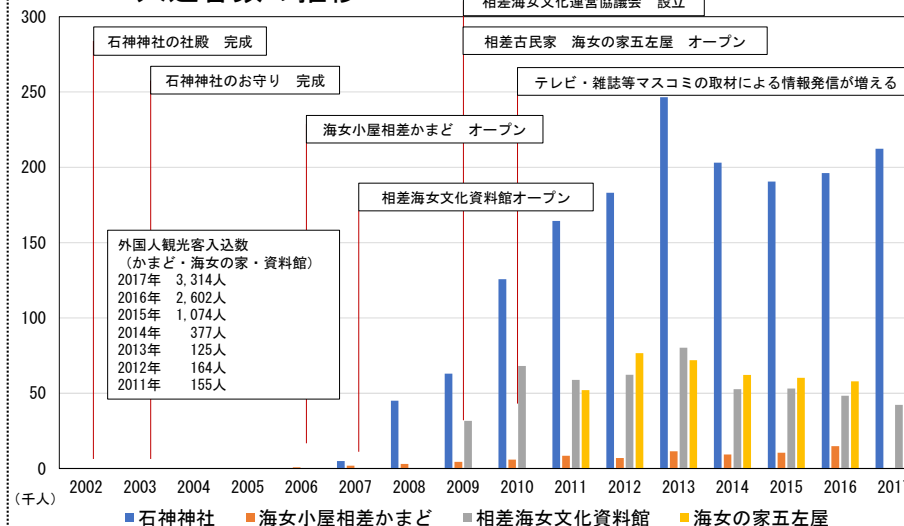
アクセスのツールと国



施設整備、体験プログラムの提供

- 「海女のまち」を感じるスポットを整備。
 - ・ 相差海女文化資料館（海女文化と歴史）
 - ・ 古民家・海女の家 五左屋（ショップ&カフェ）
 - ・ 相差かまど（海女小屋体験）
- 海女の文化・歴史を体験するガイドツアーを実施。
 - ・ 地元ガイドが相差の歴史などの説明しながら石神さんを参拝するツアー
 - ・ 海女さんとの石神さん参拝ツアー

入込客数の推移



鳥羽市の位置



石神さんのお守り



国外に対する営業

- 海外へのプロモーションとして、日本政府観光局主催の商談会等へ出展し、訪日外国人の誘客を促進。

1.14 須賀利渚泊推進協議会(三重県尾鷲市)

経緯・取組概要

- 須賀利町は、漁業者の高齢化や水揚げの減少が続いているが、首都圏で飲食店等を営む企業が漁業に参入し定置網が再開されたり、首都圏の企業がサテライトオフィスを設置したりするなど、新たな動きも散見。
- こうした中、豊かな自然と漁業体験などを組み合わせた漁村観光を推進するとともに、漁村での新しい働き方を提案し、都市との交流をするため、「須賀利渚泊推進協議会」が設立。
- 来訪者の増加による持続可能な地域の実現、またそういった地域づくりについて議論する国内・国際会議の開催誘致等を目指す。

取組内容

地域の受入体制・窓口づくり

- 須賀利町の将来像を地域住民が検討するワークショップを開催し、建築家やデザイナー等の専門家の目から見た地域の魅力を共有し、持続可能な地域としていくためのアクションプログラムを策定。
- 地域全体のホテル化を目指す取組として、整備する宿泊施設が地域のクロックとなって、予約や宿泊客の受入窓口として機能するためのシステムの構築を検討。

マーケティング、プログラムの開発

- 須賀利町に宿泊、紀北地域で体験するモニターツアーを実施。
- 首都圏の起業家を対象に、紀北の体験ツアーを開催し、地域の若手経営者との交流の機会を設け、地域における新たなビジネスの創出・雇用を期待。
- 水産加工品を開発し、地域内の飲食店での提供やおみやげ品として販売店に提供するための体制を整備。

メニュー提供者の意識向上

- 地域の農林漁業者や宿泊施設の担当者に対し、体験プログラムの構築セミナーや、安全管理研修を実施。
- 地域住民向けに民泊の開業セミナーを開催。

人材活用

- 海外のデザイナーを招致し、デザイナーから見た紀北地域の暮らし、風景にマッチしたデザインをもとに、国内の大学生を中心に、地域住民や首都圏からの参加者による古民家改修ワークショップを開催。
- 古民家改修の運営や体験プログラムの開発・整備を担う大学教員と契約。

尾鷲市の位置



1. 15 伊根浦地区農泊推進地区協議会（京都府伊根町）

経緯・取組概要

- 近年、舟屋の知名度が世界的に高まり、外国人をはじめ多くの観光客が訪れるようになったが、宿泊施設や飲食施設が不足しており、観光客のニーズに対応できず、観光消費による地域経済に十分貢献できていない。
- そこで、渚泊推進対策事業を通じて、伊根浦地区ならではの舟屋の景観を生かした宿泊施設の整備や食事提供施設の整備、また、地域内の宿泊事業者等で連携・協議し地域内独自の宿泊予約サイトを構築し、外国人宿泊者数の拡大を図る。

取組内容

インバウンドに対応した宿泊予約システムの構築

- 英語に対応した宿泊予約システムを構築した。
- システム構築は外部委託し、人材活用事業による専門人材と共同で構築した。

【多言語対応】



日本一美しい海に囲まれ、伊根町観光協会
海の京都 伊根町 海の京都

HOME | 伊根に泊まる | 伊根の見どころ | 伊根で食べる | ガイドツアー | アクセス

Ine Tourist information [Official] website

Welcome | How to enjoy | Accommodation | Eating | Access

in in-ura area
Accommodation
Choose your plan **【絞り込み】**

Meals: [Filter options]
Conditions: [Filter options]
When to reserve: [Filter options]
Average price (per person): [Filter options]

Ine Funaya Stay Minagi
Make a reservation

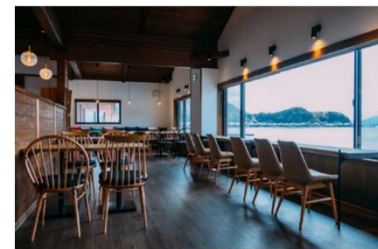
【外部予約ページへ誘導】

Booking site for Ine Funaya Stay Minagi

インバウンドに対応した宿泊予約システム（webページ）

泊食分離による役割分担

- 食の提供が新規開業のネックであったことから、伊根町が公設民営型の食事を提供する観光交流施設を2軒整備したことで、同時期に新たに4軒の体験民宿が開業した。



食事提供施設

伊根町の位置



既存施設を改修した宿泊施設の整備

- 舟屋と母屋を改修し、簡易宿所を整備した。



母屋と舟屋を改修した簡易宿所

1. 16 田尻漁業協同組合(大阪府田尻町)

経緯・取組概要

- 田尻町は、関西国際空港の対岸に位置し、周辺における宿泊施設の増加に伴い、国内外の観光客が増加傾向。田尻町漁業協同組合は、これらの観光客を周年安定して呼び込むため、既存バーベキューガーデンに開閉式囲いを整備、漁業体験とセットで海産物を提供。
- 海鮮バーベキューのみならず、本格的な漁家レストランとしても展開することにより、地元農水産物の消費拡大で所得の向上を図る。また、加工品の開発、お土産物等の直売所としての機能も充実させ、更なる収益増を企図。

取組内容

体験プログラムの提供

- 刺網漁やカゴ漁等の漁業体験を実施し、下船後、獲れた魚介類を漁師が捌いて海鮮バーベキューとして提供。
- 漁業体験の荒天時代替メニューとして釣り堀を設置。
- バーベキューガーデンや周辺施設を活用したイベントの開催。



漁業体験



海鮮バーベキュー

指 標	平成28年度実績	平成31年度(目標年)
海鮮バーベキュー関連売上高	16,991,139円	43,631,850円
漁業体験利用者数	1,983人	2,450人

インバウンドへの対応、他の組織(ホテル)との連携

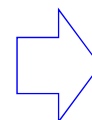
- 朝市には、近年東アジアを中心に外国人も来訪。
- インバウンドに人気のあるホテルとともに協議会を設立。

施設整備(既存施設の改修)、プログラム強化

- 既存のバーベキューガーデンに開閉式の囲いを設置。
- 既存施設では冬場(12~3月)及び荒天時には営業できなかったが、周年営業が可能に。
- 生育試験に取り組んでいる養殖カキを使ったカキ小屋事業を、漁家レストランの冬場の目玉として展開予定。



改修前



改修後

田尻町の位置



田尻町

特産品の販売

- 毎週日曜日に朝市を開催。自分が漁獲した水産物を漁業者自ら販売。
- 近畿圏全域から集客。



日曜朝市

1.17 家島諸島都市漁村交流推進協議会（兵庫県姫路市）

経緯・取組概要

- 家島諸島では、2000年代に、基幹産業の海運業、採石業の低迷から、地域資源を活用した新たな産業として観光業に取組を開始。
- 家島諸島4島は「渚泊推進会議」を設置し、日帰り型観光から宿泊型観光（渚泊）への取組に向けた受入体制を整備。
- 情報発信するためのパンフレットやwebサイトなどの制作の他、大手旅行会社等との連携で宿泊や体験プログラムの予約販売サイトの仕組みを構築。

取組内容

他の組織(大手旅行会社)との連携

○大手旅行会社や体験サイトと連携し、宿泊や体験プログラムの予約販売サイトの仕組みを構築。



体験予約サイト

地元特産品の開発

○坊勢さばを使ったさば寿司のプロモーション強化



さば寿司

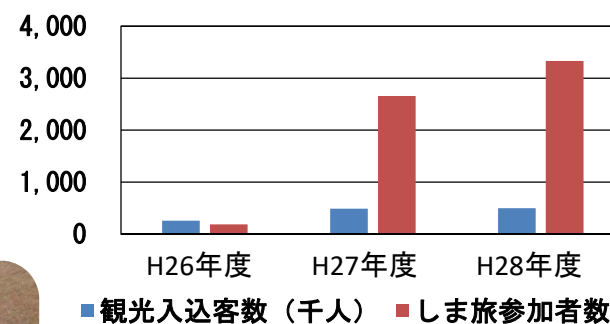
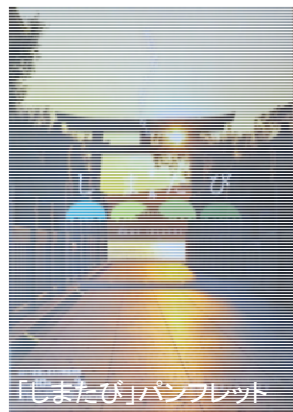
○真空包装を活用したジャムや佃煮商品を開発

家島諸島の位置



体験プログラムの強化

○既存体験プログラムの内容を精査の上、新しいタリフ（一覧表）を整備（例：夜間、早朝の体験や漁業をテーマとした体験プログラムの充実等）。



インバウンドへの対応

○インバウンド対応のために地域の事業者向けおもてなし研修セミナーを実施。

人材活用、情報発信ツールの作成

○都市部から研修生を募集し、受入。広報担当としても島の情報をwebサイトやSNSを通じて発信。
○プロのカメラマンに委託した家島フォトギャラリーと家島諸島PR動画を、家島観光事業組合ホームページに掲載。



家島観光事業組合ホームページ

1. 18 太地町漁業協同組合（和歌山県太地町）

経緯・取組概要

- 太地町では、これまで、クジラと触れあう空間の提供を通じて、交流人口の増大、地元水産物の消費拡大等を図り、地域活性化を目指すことを構想。
- その一環として、これまでのハード整備に加えて、太地町のクジラと自然環境という独自性の高い地域資源を観光コンテンツとして磨き上げ、「クジラとふれあう体験」や「漁業体験」を主軸とした、同町だけで楽しむことができる体験型プランを開発。
- 太地町漁協が中心となり、町内宿泊施設、商業施設等と連携し、広く観光プロモーションを展開。

取組内容

体験プログラムの開発

- 古式捕鯨発祥の地である太地町は、「クジラ」という独自性の高い資源を活かし、この町でしか体験できないプログラムを開発、提供。
- 各種体験プログラムや施設整備の方向性を示したまちづくりの将来構想図をとりまとめ。

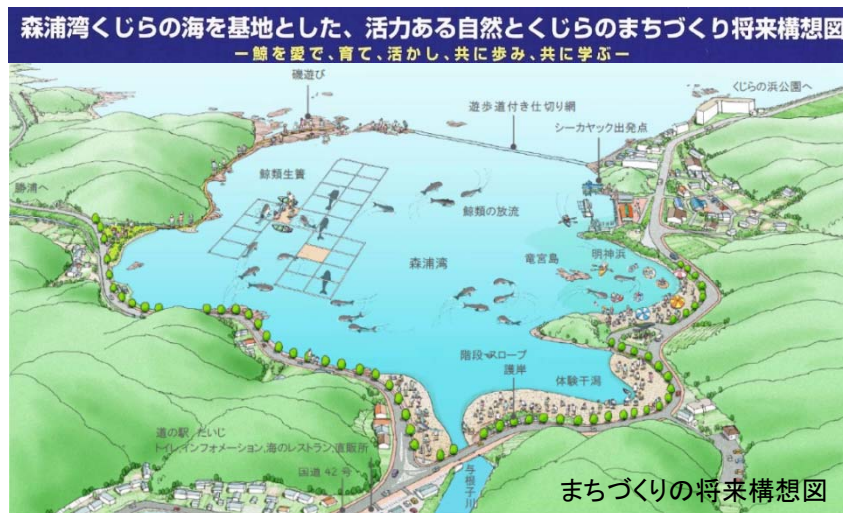


捕鯨船試乗



くじらと泳げる海水浴場

指 標	28年度実績	30年度目標
シーカヤック体験事業売上	2,147千円	3,710千円
シーカヤック体験者数	672人	1060人
体験事業による道の駅売上げ波及	0円	1,332千円
体験事業による道の駅利用者数	0人	1,110人



まちづくりの将来構想図

情報発信、地元食の提供

- 29年8月にオープンした道の駅「たいじ」にて、観光情報の発信と地元水産物や名物料理の提供を実施。



道の駅レストラン



名物 鯨スタミナ丼

太地町の位置



他の組織(博物館)との連携

- 「くじら博物館」と連携し、学芸員によるレクチャーやイルカの餌やり体験を実施。



学芸員によるレクチャーとイルカの餌やり体験

1.19 ながとふるさと体験受入協議会(山口県長門市)

経緯・取組概要

- 長門市では、これまで3地域で個々に体験型旅行の受入を行ってきたが、過疎高齢化の影響で受入家庭が減少。
- そこで、長門市全域で都市と農山漁村との交流をより一層深めることを目指した「ふるさと体験ツーリズム」の推進に取り組むため、新たな地域も含めて、「ながとふるさと体験受入協議会」を設立。
- 長門観光コンベンション事務局・中核組織となり、協議会にて長門市全域の活動組織を包括して、受入組織間での役割分担や連携、企画・販売や予約申込の窓口の一本化を実施。

取組内容

メニュー提供者のスキルアップ、インバウンドへの対応

- 勉強会に出席し、農泊の現状と課題、交付金の使い方、農泊施設開業手続き等の情報を収集。
- 都市農山漁村交流魅力向上セミナーにて、交流産業の創出による地域活性化の実践について情報を収集。
- 児童・生徒や外国人とのコミュニケーション研修を実施。

国内向け営業の実施

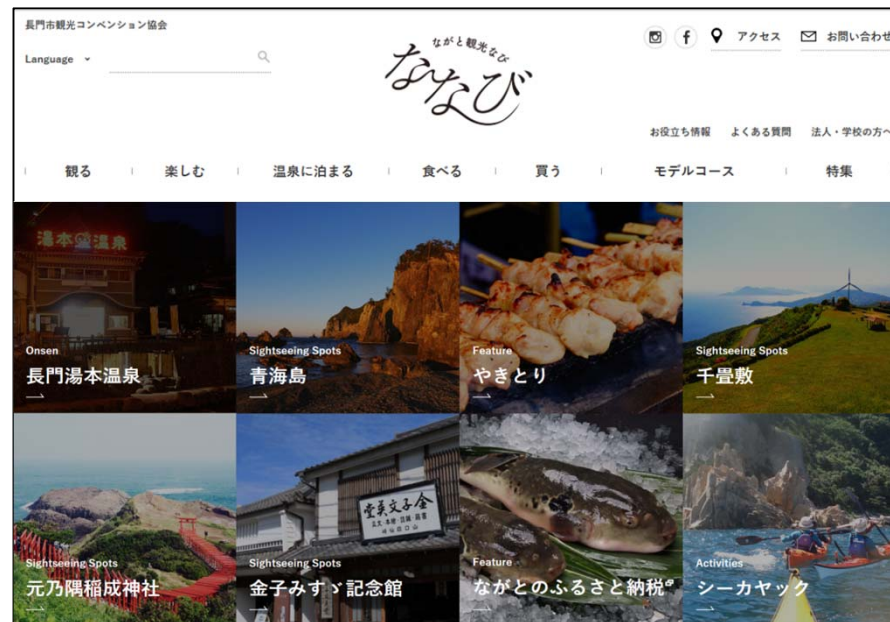
- 旅行エージェント・学校等へのセールスプロモーションを実施。

■体験型修学旅行 2017年度実績
2団体 550人(中学校・高校)

■宿泊体験活動(子ども農山漁村交流プロジェクトを含む)
11団体 357人(小学校・中学校・大学・韓国高校・外国人留学生)
～受入地域(受入地区の連携)～
通・青海島地区、俵山・渋木地区、三隅・油谷地区、通地区、俵山地区、通・三隅地区

情報発信ツールの作成、窓口づくり

- 各地区への窓口を一元化するために、予約受付用のホームページを作成。
- 市内各地区の取組をホームページにて紹介。



ながとふるさと体験
ななび

(一社)長門市観光コンベンション協会
759-4106 山口県長門市仙崎4297-1
道の駅センザキッチン観光案内所(YUKUTE内)
TEL: 0837-27-0074 FAX: 0837-27-0079

長門市経済観光部観光課
759-4192 山口県長門市東深川1339-2
TEL: 0837-23-1137 FAX: 0837-22-6487

(一社)長門市観光コンベンション協会のホームページ

長門市の位置



1. 20 伊座利の未来を考える推進協議会（徳島県美波町）

経緯・取組概要

- 伊座利地区では、90年代に小中併設校の通称「伊座利校」の廃校問題をきっかけに、住民による地域おこしを開始。
- 2000年4月に設立した「伊座利の未来を考える推進協議会」では、子どもからお年寄りまで全住民が加入し、町内会や漁協、学校、婦人会など、地区内のあらゆる団体とも連携しながら運営。
- 地区外の中・小学生以下の子どもを伊座利校に受け入れる「漁村留学」をきっかけに、全国各地から移住者が集まってきており、現在では人口の6割が移住者であり、高齢化率も減少。

取組内容

体験プログラムの提供

- 地区外の子どもが地区に家族で引っ越し、伊座利校に通う「漁村留学」を実施。これまでに首都圏、関西圏、徳島県内などから100人を超える転入生を受入。
- その他の体験プログラムとして、1日漁村留学体験や、海女の仕事体験を実施。



1日漁村留学体験



海女の仕事体験



施設整備(カフェ、宿泊施設)

- 海女さんや漁師のお母さんたちが経営するカフェを整備。地元水産物を使った料理を提供し、来訪者や地域住民が集まれる、利用できるコミュニティ空間として機能。
- カフェの2Fにゲストハウスを整備。



カフェ(1F)、ゲストハウス(2F)

美波町の位置



移住・定住の支援、情報発信ツールの作成

- 移住者希望者のために「伊座利を知りたい人のためのガイドブック」、「伊座利を知りたい人のためのガイドサイト」を作成。移住に向けたフローを提示。
- 移住受入について、地区への移住には協議会との話し合いが必要。また、協議会が住居を紹介。
- 現在では人口の約6割が移住者。漁業後継者、1ターン就漁者も増加。



移住希望者向けのホームページ 30

1. 21 黒潮町観光ネットワーク(高知県黒潮町)

経緯・取組概要

- これまで砂浜を美術館にみたてた活動や、集客施設を利用したカツオのたたきづくりや天日塩づくりなどの体験プログラム提供に取り組んできた。
- しかし、イベント中心の観光振興では一時的な交流人口の増加にとどまり、宿泊の有効な拡大には至っていない。
- そこで、地域資源についてストーリーをもって編集し、宿泊と体験等を組み合わせた旅行商品を販売や、インバウンドの呼び込みを図るとともに、ワンストップ窓口として機能強化を図る。

取組内容

地域資源を活かした商品開発

○南海トラフ大地震による津波高34mという日本一の想定を逆手にとり、「防災学習プログラム」を開発し、販売。
○プログラムは、これから起こり得る災害に対しどのような行動ができるのかを考え、一人一人の防災意識を高め、生きる力を育てる内容となっている。



津波避難タワー



津波避難看板等



NHK報道

○町のスポーツ施設が充実していることや、個室対応のできない民宿でもスポーツ合宿であれば受入れが可能であること、廃校を活用した宿泊施設もあるから、スポーツ合宿を受け入れるスポーツツーリズムを推進。



町のスポーツ施設



廃校を活用した
宿泊施設

受入体制の強化

- 組織の中核法人が日本版DMO候補法人に登録。
- 幡多広域観光協議会と連携し、幡多広域観光協議会を通じた営業、一般客や修学旅行の受入を実施。

インバウンドへの対応

- 英語・繁体字・簡体字に対応したパンフレットとホームページの作成。
- 町内5箇所の体験プログラムに対する音声ガイド（英語）の作成。



黒潮町の位置



1.22 一般社団法人まつうら党交流公社(長崎県松浦市)

経緯・取組概要

- 旅行形態の変化(旅の目的提案、見る観光から体験交流型・滞在型観光への変化)、6次産業化に対応していかなければ、生き残れないとの思いから、修学旅行生の受入を中心に「ほんもの」の体験型旅行事業の企画・運営を開始。
- 近年は民泊受入家庭や農林漁業等体験インストラクターの高齢化により、担い手の減少が目立つことから、担い手の確保や一般客の誘致を図る。
- そこで、担い手への講習会開催・参加呼びかけや、国内外にPRするための動画の制作と国際交流取扱団体の招聘に取り組む。

取組内容

体験プログラムの提供

○日常あるがままの生業等をそのままプログラム化した、「ほんなもん(ほんもの)」の80種類以上の豊富な農林漁業体験プログラムを提供。

○日最大1,200名の受入れが可能な漁村・農村民泊体制を有しているが、ニーズに対応して要望を取り入れたプログラムも提供している。

体験プログラムの内容

分類	数	プログラム内容(個人・グループ旅行/教育旅行別)
漁業体験	13	漁村民家ステイ、定置網漁、地引網漁、養殖場エサやり、イワシ網漁、カゴ漁、たこ漁、延縄漁、船釣り、港釣り、刺網漁 ほか
農林業体験	17	農村民家ステイ、いちご収穫、田植え、稲刈り、じゃがいも栽培、酪農家の牛乳豆腐作り、森林間伐、炭焼き、和牛農家 ほか
味覚体験	23	田舎料理、長崎ちゃんぽん、押し寿司、そば打ち、豆腐、よもぎもち、魚のおろし方、かまぼこ、さつま揚げ、アジの開き ほか
自然・歴史体験	11	元寇史跡と星鹿城山、鷹島元寇史跡探訪、阿値賀島自然観察クルージング、志々伎山登山、磯の生物観察、昆虫観察 ほか
アウトドア体験	6	乗馬、シーカヤック、ヨット、和船漕ぎ、筏作り、川釣り
伝統・工芸・文化・平和体験	14	つる工芸、凧作り、わらざり作り、竹細工、昔玩具作り、押し花作り、茶道 大名茶鎮信流、座禅、松浦火力発電所見学 ほか
計	84	



体験の様子

担い手の啓発普及活動

○体験型旅行事業の教育的または経済的効果を各担い手が再認識するため、講習会開催・参加呼びかけ。

インバウンド対応

○農山漁村の豊かな自然を活かした体験型旅行事業をPRするための動画とパンフレット(いずれも多言語)を制作し、Webサイトに掲載。

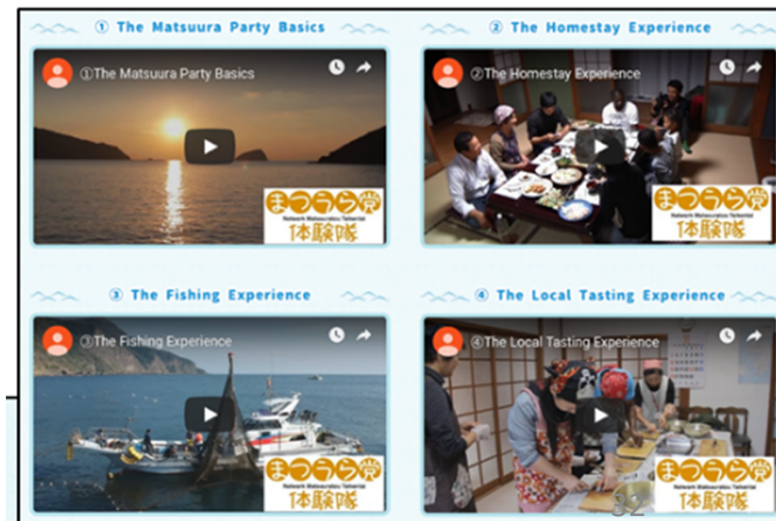
○海外で開催される国際旅行展示会へ出展(台湾の3地域で開催)し、地域や体験・宿泊の旅行商品をPR

○インバウンドを対象としたモニターツアーを実施。



モニターツアーの様子

松浦市の位置



インバウンド向けのPR動画

1.23 対馬グリーンブルーツーリズム協会(長崎県対馬市)

経緯・取組概要

- 対馬グリーン・ブルーツーリズム協会は、対馬の農林漁業体験活動の推進にあたり、観光・体験の案内や宿泊の斡旋など、総合的な窓口の役割を果たしている。
- 近年韓国人観光客が増加しているが、日本人観光客は伸び悩んでおり、ユネスコの「世界の記憶」や「日本遺産」、「味の箱舟」といった貴重な地域資源を十分に活用し、国境の島という特徴を活かしたメニュー提供が課題。
- 市内各エリアの特徴を活かし、着地型観光商品の開発とプロモーションを実施。併せてwebサイトでの申し込み手続きの一元化を実施。

取組内容

観光商品の開発、プロモーション

- 農林漁家への民泊と体験を組み合わせた「対馬を暮らす旅」、国際体験交流を取り入れた「国境をつなぐたび」、教育旅行としての「原点を学ぶ旅」等の着地型観光商品の開発とプロモーションを実施。
- 教育旅行や、学習意欲の高いアクティブシニア層を取り込む。

佐護

バードウォッチング、ツシマヤマネコ探索、対馬乗馬体験などの自然学習と稲作などの農業体験が可能

志多留・田ノ浜

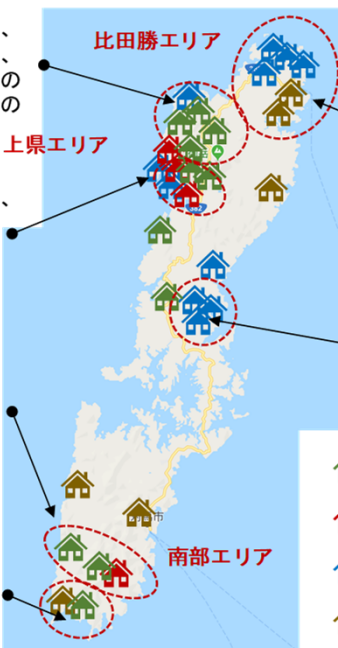
稲作伝承の地であり、伝統的な里山景観が残る、味噌や草履づくりなどの伝統的な暮らし体験が可能

内山・久根田舎

炭焼きやシイタケ栽培、畜産、稲作に加え、ジビエ料理体験などあらゆる産業体験が可能

豆蔵

亀トヤや赤米神事など伝統的な文化が色濃く残る地。地域・民族研究の他、漁業、果樹栽培などの産業体験も可能



エリア別の観光商品と民泊

比田勝周辺
韓国との交流が盛んであり、交流体験や竿釣学習の他、日韓・日露関係の敵視学習、漁業などの漁業体験が可能

千尋蓬
イカ釣りやイカ加工などの漁業体験の他、シーカヤックや登山などの野外活動との連携も可能

- 農家民泊 11軒
- 林家民泊 4軒
- 漁家民泊 11軒
- 一般民泊 6軒

2018年12月現在

受入体制の強化

- Webを使ったプロモーションのための戦略分析を行ったうえでホームページをリニューアルし、多言語化(英語、韓国語)対応をと、問い合わせ・申し込み手続きの簡素化・一元管理化を実施。
- 情報発信やホームページへのアクセスを高めるため、Facebookを立ち上げ。



Webサイトは2017年12月公開

多言語対応のWebサイト

対馬市の位置



人材の活用

- webサイトの更新、SNS情報発信、外国人対応窓口(英語、韓国語)、ツアーガイドのための研修生を活用。

人材の育成

- サービス向上および経営力強化に向けた研修を実施。



ガイド研修の様子

1. 24 NPO法人おぢかアイランドツーリズム協会（長崎県小値賀町）

経緯・取組概要

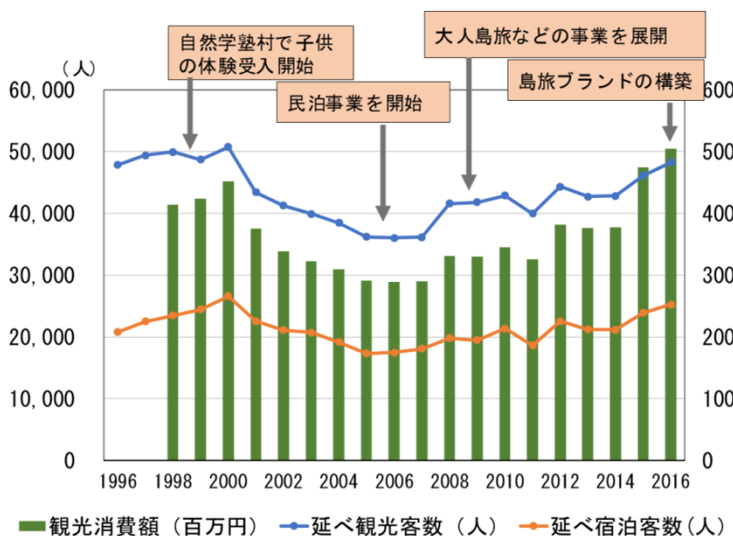
- 小値賀町では、90年代に、人口減少が進む中で”このままでは将来無人島になる”との危機感をもち、これまで自然と教育の連携した観光、アイランドツーリズムによる過疎対策を複数の組織にて実施。
- 島内観光のブランド化と持続可能な体制づくりのため、島内受入組織を「NPO法人おぢかアイランドツーリズム協会」に統合。
- 同NPOでは、観光を通して島の課題を解決するソーシャルエンタープライズとして、自然体験事業、古民家事業運営、島内観光窓口、島の観光ワンストップ窓口など多岐にわたる事業を実施。

取組内容

体験プログラムの強化

- 教育旅行中心から、高価格商品の大人島旅などへ企画を転換。
- 地域の特色を生かした多様な農山漁村のアイランドツーリズム（島暮らし体験）の推進。
- ブランドを具体化した商品の開発。

小値賀町観光客数の推移



受入体制・窓口づくり、情報発信ツールの作成

- 島内観光の様々な窓口をNPOに一本化。
 - ・ 民泊事務局
 - ・ 島旅コンシェルジュ
 - ・ フェリーターミナル観光窓口・島の観光案内
 - ・ 古民家事業の運営・広報活動
- 島旅の情報発信、予約受付のためのホームページの作成。



ホームページ

小値賀町の位置



施設整備(古民家改修)、人材活用

- 小値賀町が古民家を改修したレストランや宿泊施設を整備。NPOが指定管理。
- 外部の専門家が古民家の再生、活用についてプロデュース。
- 宿泊施設では、地元食材を使って自炊が可能。



古民家を改修した宿泊施設

1. 25 NPO法人かまえブルーツーリズム研究会(大分県佐伯市)

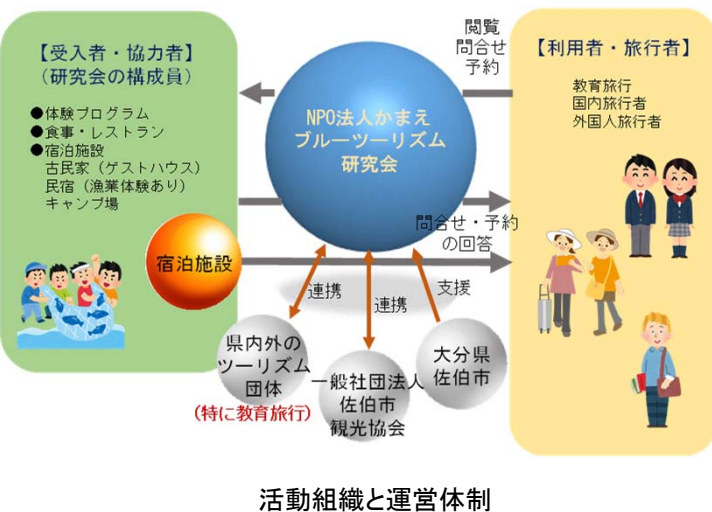
経緯・取組概要

- 蒲江地域では、10年間程、漁業体験と宿泊を融合したブルーツーリズムを推進してきたが、来訪者を惹きつけるに足る十分な魅力を提供できていないことが課題であった。
- そこで、地域の旅館や民宿、道の駅などの飲食店や加工グループ等と連携し、地域内を周遊させ、地域経済効果を出せるプログラムを造成するとともに、大学との連携による観光コンテンツの掘り起こし、個人旅行・インバウンドをターゲットにライブカメラや動画による情報発信に取り組む。

取組内容

受入体制の強化

○NPO法人が、地域の各種団体を構成員とし、かつ県内外の団体、行政機関と連携。



○今後は、宿泊事業者及び体験プログラムや飲食の提供事業者が一般社団法人を設立し、地域の関係団体との調整を行うDMO機能を持つことで、地域全体のマネジメントを目指す。

体験プログラムの開発

○地域最大の魅力「新鮮な水産物」の強みを生かし、地域を食で巡る「回転レストラン」として位置付け、地域内を周遊させたり、養殖筏の上で飲食できるようにするなどにより、地域内に経済効果を出せるプログラムを造成。

情報発信ツールの作成

○ライブカメラや定点撮影カメラを設置し、蒲江の海の魅力をwebサイトから常時発信。

○首都圏や大阪・福岡圏の県人会と連携し、蒲江の海の魅力についてゆかりのある人たちをターゲットに重点的な情報発信に努める。



Answer

大分県南部の佐伯市蒲江だよ。

眼前は、九州と四国に挟まれた豊後水道と太平洋が広がっているよ。典型的なリアス式海岸が続いているよ。
そのため、蒲江地区だけで12の集落(浦)に分かれているよ。



動画での定置網漁見学ツアー

佐伯市の位置



モニターツアーの実施

○個人旅行・インバウンド誘客に向け、地元の立命館アジア太平洋大学(APU)の外国人学生などを対象としたモニターツアーを開催。

○受入体制の整備を行うとともに、モニター参加者にブログやSNS等で情報発信をしてもらうことでプロモーション活動に努める。

取組のステップアップ事例紹介 目次

番号	事例のタイトル	事業実施主体名	地域
2. 1	【漁業体験】受入体制の強化と体験メニューの充実化で漁業体験人数の増加	北海道寿都町水産業産地協議会	北海道寿都町
2. 2	【宿泊】新規就業への課題を解決し宿泊施設増加、受入窓口の整備による外国人宿泊客数増加	伊根浦地区農泊推進地区協議会	京都府伊根町
2. 3	【体験プログラム】日本一の被害想定を逆手に取った体験プログラムの造成	黒潮町観光ネットワーク	高知県黒潮町
2. 4	【組織】組織統合による取扱エリアの拡大と利用者の利便性向上	一般社団法人 まつうら党交流公社	長崎県松浦市、佐世保市、平戸市

2.1 【漁業体験】受入体制の強化と体験メニューの充実化で漁業体験人数の増加 ～北海道寿都町水産業産地協議会(北海道寿都町)～

取組の成長・発展のポイント

- 漁業体験の受入対応にあたり、専門の旅行会社に依頼したことにより、受入体制を強化。
- 漁港施設を活用した漁業体験メニューの提供や、新たな体験の場を整備することで提供可能な体験メニューを充実化。

1990年代～

STEP1 体験型ツーリズムの受入開始

【地域の問題点】

- ・若者の流出と過疎高齢化の進行
- ・基幹産業の水産業の低迷、就業者の減少
- ・観光業の低迷

<目標>

「地域資源を活用したまちづくり」により、にぎわいの創出、定住人口増加を図る。

【地域の振興ビジョンの策定】

- ・「寿都地域マリンビジョン」を策定・公表。
- 「寿都・後志ツーリズム交流文化圏」の形成を目指す。

【体験型ツーリズムの提供】

- ・体験型ツーリズムの提供に向けて、町、漁協等が連携してモニターツアーを実施。
- ・寿都町が主導し、修学旅行生の漁業体験受入を開始。

2008年～

STEP2 受入体制の強化とメニューの充実化

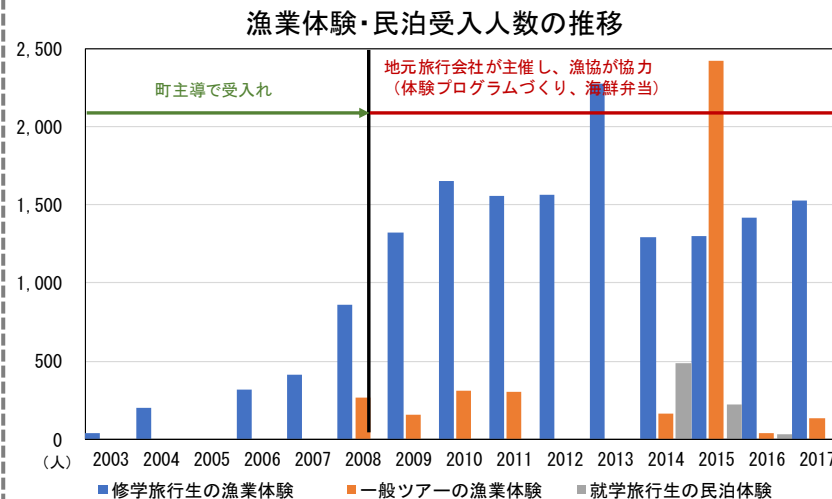
【漁業体験の受入体制が限界に】

- ・町が主導で受入を行っていた漁業体験について、希望者が増加。
- また、日帰りでの体験提供を行っていたが、宿泊の要望が増加。

【漁業体験の受入を地元旅行業者に依頼】

- ・町が担っていた受入窓口を地元旅行会社が実施。
- ・旅行会社が主催となり、漁協が体験プログラムや食事の提供を実施する体制を確立。

漁業体験人数の増加



町での対応が限界

【漁港施設の活用】

- ・様々な漁港施設を活用し、多様な漁業が営まれている寿都漁港の特徴を活かした体験メニューを提供。

【新たな交流拠点施設の整備】

- ・寿都漁港周辺に、道の駅「みなとまーれ寿都」、体験交流施設及び水産物普及施設として「すつつ浜直市場」を整備。



漁港施設と交流拠点施設を活用した体験メニュー

2.2 【宿泊】新規就業への課題を解決し宿泊施設増加、受入窓口の整備による外国人宿泊客数増加 ～伊根浦地区農泊推進地区協議会（京都府伊根町）～

取組の成長・発展のポイント

- 宿泊施設の新規開業にあたっての課題を的確に解消することで、地区内の宿泊施設数が増加。
- 増加する外国人観光客に対し、個別の宿泊施設での対応ではなく観光協会が外国人向け受入窓口を整備し、地区全体の受入の課題を解消。

2008年～

STEP1 資金援助による新規開業の推進

【地域の問題点】

- ・経営者の高齢化や後継者不足により、舟屋を活用した宿泊施設が減少。
- ・日帰りの観光客が多くなり、観光業の地域経済への寄与が減少。

【新規開業を促す支援を実施】

- ・伊根町が宿泊施設の開業支援金制度を創設。
- ・空き家となっていた舟屋を改修する等し、5軒の新規事業者が誕生。



舟屋を改修した宿泊施設

2016年～

STEP3 受入窓口の整備による外国人客の取り込み

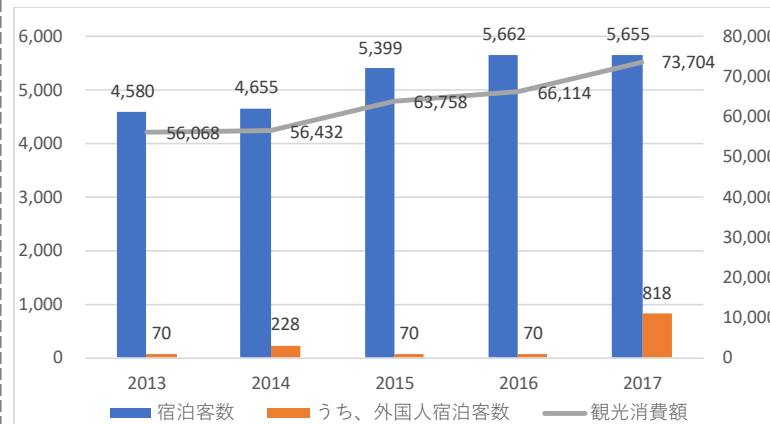
【外国人観光客が増加】

- ・世界的に舟屋の知名度が高まり、外国人観光客が増加。
- ・宿泊予約には宿泊施設と利用者が直接やり取りをしていたが問題が生じていた。

【外国人向け宿泊予約システムの構築】

- ・観光協会が町内外の外国人を雇用し、Eメールによる町内の宿泊施設の予約代行サービスを実施。
- ・webサイトにて英語に対応した町内宿泊施設の予約システムを構築。

外国人宿泊客の増加



伊根浦地区の宿泊客数と観光消費額の推移

2017年～

STEP2 施設整備による新規開業の推進

【宿泊業の新規開業が頭打ち】

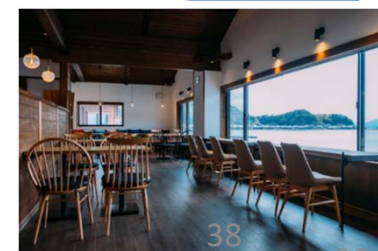
- ・宿泊施設にて食事を提供することが難しく、新規開業数が頭打ちに。
- ・地区内の飲食店も少なく、食事提供の受け皿が不足。
- ・しかし、舟屋の知名度向上に伴い、舟屋に宿泊することを目的とする観光客は増加。

宿泊ニーズに対応できない

【宿泊と食事の分離の推進】

- ・伊根町が食事を提供するための公設民営型の観光交流施設を整備。
- ・泊食分離による宿泊施設の運営体制をモデル化。
- ・食事提供の課題が解消され、新たな宿泊施設が開業。

宿泊施設の増加



食事を提供する観光交流施設

2.3 【体験プログラム】日本一の被害想定を逆手に取った体験プログラムの造成 ～黒潮町観光ネットワーク(高知県黒潮町)～

取組の成長・発展のポイント

○南海トラフの被害想定により落ち込んだ集客を、被害想定を逆手に取ったプログラムを造成することで増加を図る。
○さらなる観光振興を図るために必要な組織の仕組みや役割を検討し、協議の場の設立と、DMO候補法人への登録。

2003年～

STEP1

受入体制の形成

【観光関係の組織の統合】

- ・地域内には観光に関わる組織が4団体あったが、「NPO法人砂浜美術館」に統合。
- ・NPO法人砂浜美術館では、地域の観光に係るワンストップ窓口を担う。

【地域の観光振興の課題】

- ・観光客を呼び込むために、各種イベントを開催していたが、年間を通じた観光振興にはつながっていなかった。

【町内施設を活用したスポーツツーリズムの推進】

- ・町内には、サッカー場、陸上競技場、テニスコート、体育館等があり、スポーツ施設が充実している。
- ・民宿でも、部屋を複数名で利用するのであれば受入が可能。
- ・NPO法人砂浜美術館が窓口となり、スポーツ施設や宿泊先の手配、当日の準備・片付け、試合相手の調整、パンフレットの作成等のスポーツ合宿や大会に必要な事項のコーディネートを実施。

2011年～

STEP2

町の特徴を活かした独自のプログラムを開発

【南海トラフの被害想定が公表】

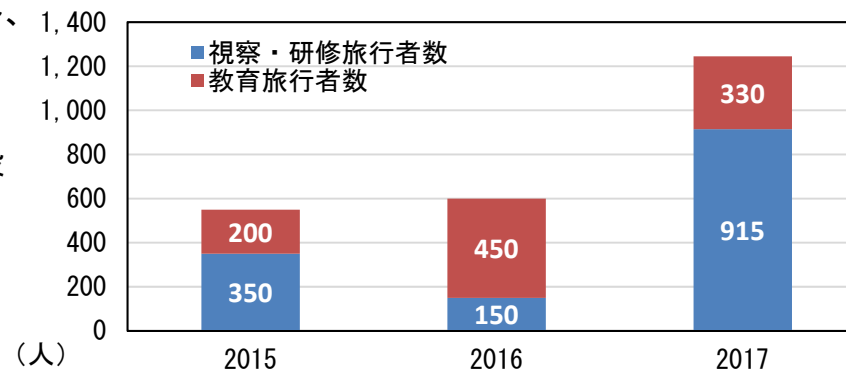
- ・黒潮町の被害想定は津波高は34mと、日本で最も深刻な想定であった。
- ・津波被害を恐れ、修学旅行のキャンセルが発生し、入込客数が減少。

被害想定が
集客に悪影響

【被害想定を逆手に取った防災学習プログラムの開発】

- ・町内の津波避難タワー、津波避難訓練支援アプリ、特産品を加工した非常食缶詰等を活用し、黒潮町ならではのストーリーを持った防災学習プログラムを開発。
- ・防災対策を学ぶ視察地としての優位性を確立。

視察・研修旅行者が増加



2013年～

STEP3

さらなる観光振興のための組織の発展

【合意形成の場の設立】

- ・町の活性化のために必要な観光について、関係者が協議し合意形成を図る場が必要との認識が高まり、そのための組織として「黒潮町観光ネットワーク」を設立。
- ・NPO法人砂浜美術館が事務局を担当。

【黒潮町観光ネットワーク メンバー】

- ・NPO法人砂浜美術館（事務局）
- ・黒潮町
- ・宿泊体験施設
- ・商工会、地元商店
- ・一次産業団体（農林漁業）
- ・金融機関
- ・交通機関（ハイヤー）
- ・スポーツ関連団体
- ・地域団体（集落活動センター）
- ・外部有識者
- ・教育関連団体（大学機関等）

【日本版DMO候補法人に登録】

- ・津波被害が想定される中での集客手法、来訪者の消費による地域経済への寄与を検討し、日本版DMO候補法人の登録を目指すことを決定。
- ・2016年、NPO法人砂浜美術館が日本版DMO候補法人に登録。

2.4 【組織】組織統合による取扱エリアの拡大と利用者の利便性向上 ～一般社団法人 まつうら党交流公社（長崎県松浦市、佐世保市、平戸市）～

取組の成長・発展のポイント

- 同様の活動をしていた組織を統合することで、広域・多数の受入地区の窓口がワンストップ化。旅行会社・旅行者の利便性も向上。
- 組織存続のため、従来の主軸商品以外の新たな事業を検討し、受入体制の整備に向けた取組を実施。

2002年～

STEP1

受入組織、コーディネート組織の成立

【組織の成立】

- ・同時期に、松浦市にて体験型旅行の受入を行う3つの組織が立ち上がる。
- ・2003年に初めて修学旅行生を受入れ、松浦市での体験型観光振興が本格的に開始。

①松浦体験型旅行協議会（2002年設立）

構成員：松浦市内の関係団体（商工会議所、観光協会、漁協、農協、クラスター、受入組織、市役所等）

活 動：民間主導による体験受入のコーディネート

②松浦党の里体験観光協議会（2003年設立）

構成員：北松半島の関係団体（松浦・平戸・北松地区の商工会議所、観光協会、漁協、農協、クラスター等）

活 動：松浦体験型旅行協議会と一体的に活動し、広域連携への助言・指導

③NP0法人体験観光ネットワーク松浦党（2006年設立）

構成員：北松半島の受入組織等（松浦・平戸・北松地区の受入組織、体験教育企画代表、クラスター代表）

活 動：受入体制の整備

2009年～

STEP2

組織の統合による体制強化

【組織が複数あることによる課題】

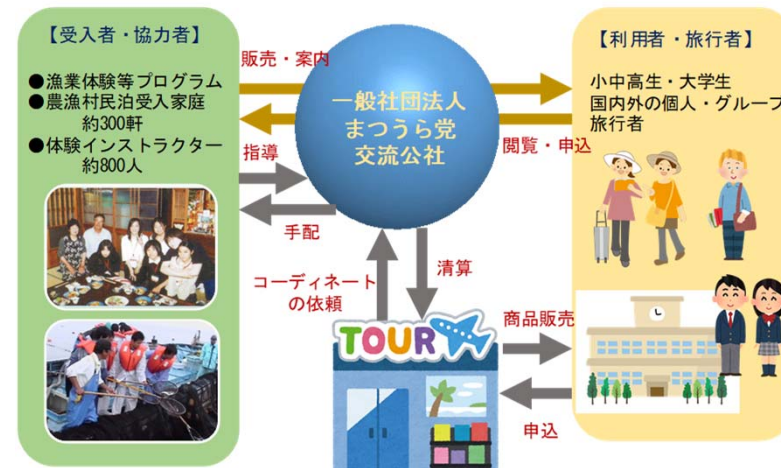
- ・組織が分かれていることにより、対外的な信用の構築、迅速な意思決定、自立した運営が課題に。

【（一社）まつうら党交流公社の設立】

- ・3つの組織を再編・統合。
- ・3市14地区の受入地区への案内が可能であり、受入者と旅行会社・旅行者の間に入り、体験や宿泊のコーディネートを実施。
- ・当組織の地域における重要性を鑑み、松浦市と平戸市が人的、経済的に支援。

<組織統合の狙い>

- ①学校や旅行会社など対外的な信用と、担い手側の信頼を高める法人組織の構築。
- ②迅速な意思決定機能を有し、担い手中心の機動性の高い体制の構築。
- ③官民の役割分担・連携強化による新たな協働体制への再構築。



（一社）まつうら党交流公社の活動概要

2017年～

STEP3

組織存続のための新規事業への取組

【組織の問題点】

- ・修学旅行の受入を中心に企画・運営してきたが、修学旅行は準備に手間と時間がかかる。
- ・民泊受入家庭、体験インストラクターが高齢化し、担い手が減少。

修学旅行だけでは
将来的に組織運営
が困難に

【インバウンド受入の検討】

- ・国際交流取扱団体の職員の招聘。
- ・インバウンド対象のモニターツアーの実施、インバウンド受入体制の改善点を把握。
- ・国際旅行展示会（台湾にて開催）へ出展し、海外へのPRを実施。

【新たな担い手の確保】

- ・体験型旅行事業の教育的、経済的効果を担い手が再認識するための講習会の開催、参加の呼びかけ。